

第五次大野市総合計画

平成 27 年度における取り組み状況報告

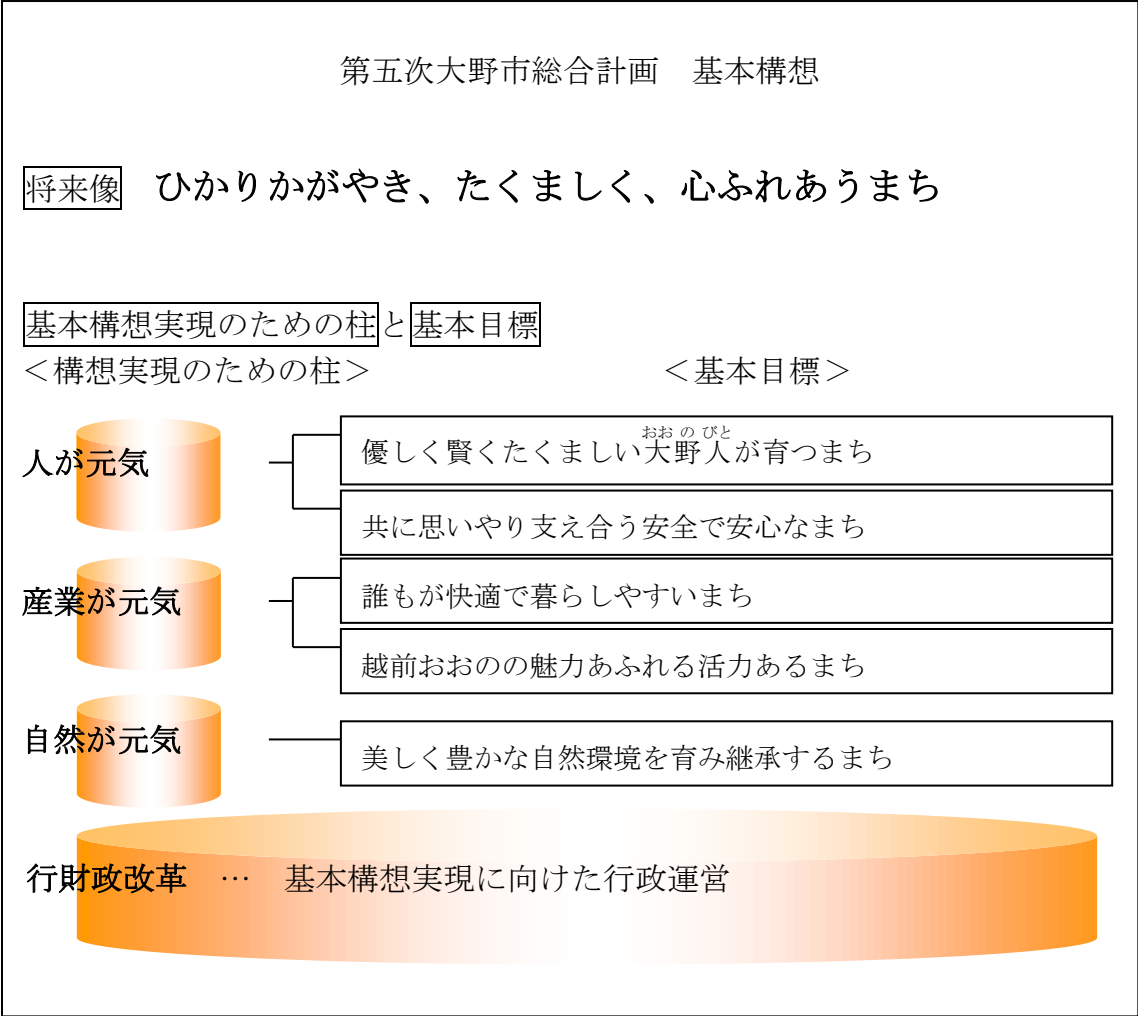
1 総合計画とは

大野市の将来を展望し、まちづくりの目標と方向を明らかにした最上位の計画であり、長期的・総合的な市政運営の指針となる計画です。

総合計画は、「基本構想」と「基本計画」で構成します。

基本構想では、大野市の将来像やまちづくりの目標を設定しています。基本構想の期間は、平成 23 年度から平成 32 年度までの 10 年間です。

基本計画では、基本構想に沿って必要な施策や事業を体系的に示しています。前期基本計画“越前おおの元気プラン”の期間は、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間です。



2 平成27年度の実施状況

前期基本計画“越前おおの元気プラン”の5年目の実施状況について、基本目標ごとに報告します。

(1)「基本目標 優しく賢くたくましい大野人が育つまち」の実施状況

地域おこし協力隊事業では、本市のブランド発信を推進するため、都市部から地域おこし協力隊を1名誘致しました。主に「天空の城越前大野城」のPRなどに従事しています。

地域情報通信基盤整備事業補助では、上庄、阪谷地区の光ファイバーによる超高速ブロードバンド環境の整備に補助しました。

5年目となる結の故郷越前おおの元気創造事業補助では、地域の活性化につながる事業で、市民団体が主体的に企画立案し実施する事業に対して助成しました。

世代間結づくり事業では、地域のコミュニティ会館を利用し、住民の世代間交流を進める事業に対して補助しました。

教育分野では、平成27年4月から結の故郷奨学金制度を開始しました。大学などの卒業後、市内に居住するとその後の返済額が半額に、結婚して夫婦で市内に居住するとその後の返済が免除されるのが特色です。

学校教育では、市の国際理解教育推進員（ALT）を新たに1名増員し、2名体制として、国際感覚のある人づくりを展開するとともに、小学校5・6年生と中学校のすべての学級に電子黒板やデジタル教科書、タブレット型パソコン、書画カメラなどのICT機器を導入し、学習の質の向上を図りました。

いじめ防止対策事業では、いじめ問題対策連絡協議会、連携会議の開催や相談窓口の開設、カウンセリングの実施により、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を促進しました。

小学生結文化伝承事業では、受け継がれてきた結の心を子どもたちに伝えるため、「わたしたちの『結の故郷』」を作成し、市内全ての小学5年生に配付し、道徳や学級活動などの時間に活用しました。

現役世代交流促進事業では、同窓生が市内で同窓会を開催する経費の一部を補助し、交流人口の拡大と市外居住者の帰省促進を図りました。

市民一人一人の人間力を高め、結の心の醸成を図るため、結の故郷ふるさと教育推進計画を策定しました。今後、計画に基づき、家庭教育力の向上や伝統文化の継承など地域教育力の向上に取り組めます。

平成27年4月から、市の指定文化財である武家屋敷旧田村家の一般公開が開始されました。家屋とともに田村家が所有していた貴重な資料などを管理、展示しています。

越前大野城ライトアップLED化事業では、越前大野城の夜間照明を従来の水銀灯からLED電球に変え、より魅力的な夜間の景観を作りました。

<主な事業（決算額ベース）>

・地域おこし協力隊事業	295万円
・地域情報通信基盤整備事業補助	1億1,000万円
・結の故郷越前おおの元気創造事業補助	172万円
・世代間結づくり事業	68万円
・国際理解教育推進員配置事業	758万円
・いじめ防止対策事業	157万円
・結の故郷学校ICT推進事業	5,823万円
・小学生結文化伝承事業	16万円
・結の故郷奨学金基金積立	5,000万円
・現役世代交流促進事業	44万円
・結の故郷ふるさと教育推進計画策定事業	81万円
・田村家管理運営経費	649万円
・越前大野城ライトアップLED化事業	1,353万円



「天空の城越前大野城」のPR
(地域おこし協力隊事業)



越前おおのひな祭り
(結の故郷越前おおの元気創造事業補助)



ALTの活動



武家屋敷旧田村家

(2)「基本目標 共に思いやり支え合う安全で安心なまち」の実施状況

再生可能エネルギー等導入事業では、拠点避難所17カ所に太陽電池式のLED照明を設置しました。

交通安全指導教育事業では、交通指導員などを設置して交通安全教室を開催するとともに、子供用自転車ヘルメットの購入補助を行っています。また、自転車に傷害保険と賠償責任保険の付いたTSマークを取得する際の補助を、新たに設けました。

本市の地域福祉の推進に係る各種施策を総合的、計画的に展開するため、第三次大野市地域福祉計画を策定しました。

生活困窮者自立支援事業では、生活困窮者に対し、相談や就労支援などを行い、生活保護に至る前の自立促進を図っています。

障害児福祉サービス事業では、障害児が、日常生活に必要な知識や技能を身に付けられるよう、通所や相談などの支援を行いました。

ベビ待ちセミナー事業では、「妊活」支援の一環として、妊娠しやすい体を整えるために必要な体作りの方法を学ぶセミナーを開催しました。

がん検診については、新たに特別徴収者にも受診勧奨の通知を拡大した結果、受診者数が増加しました。休日検診やレディース検診など市民が受診しやすい体制を整えたことで、受診拡大に効果がありました。

また、福井県助産師協会の協力を得て、月2回の育児相談で母乳相談を実施しました。市内には母乳相談できる医療機関がないため、参加者からは高い評価を得ました。

城下町南広場整備事業では、旧庁舎を解体し、災害時の防災拠点として利用可能な駐車場やイベント広場を整備しました。これによって、市庁舎を中心に、結とびあ、城下町南広場、有終公園、消防本部及び休日急患診療所などの施設を含めた防災拠点エリアが完成しました。

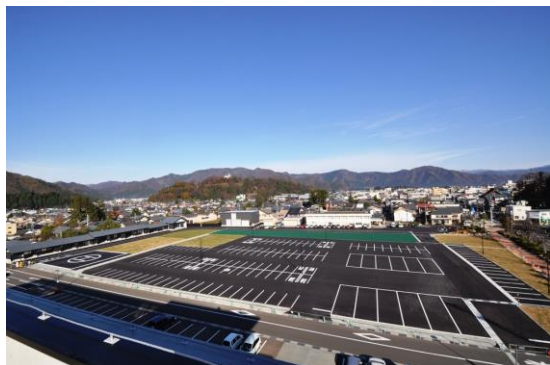
市消防本部及び消防署の設立60周年を記念し、記念大会の開催などを行いました。

また、平成26年度に結成した「結の故郷女性分団」では、福井県消防操法大会への出場や女性消防団員特別訓練への出場を通して、災害対応のレベルアップを図りました。

<主な事業（決算額ベース）>

・再生可能エネルギー等導入事業	2, 743万円
・交通安全指導教育事業	716万円
・地域福祉計画策定事業	55万円
・生活困窮者自立支援事業	330万円
・障害児福祉サービス事業	4, 214万円
・ベビ待ちセミナー事業	19万円
・がん検診推進事業	4, 907万円
・育児等健康支援事業	78万円
・城下町南広場整備事業	2億3, 756万円
・常備消防設立60周年事業	72万円

・消防団運営経費	1 8 8 万円
・消防団消防操法大会出場経費	3 2 6 万円



城下町南広場



福井県消防操法大会への出場

(3) 「基本目標 誰もが快適で暮らしやすいまち」の実施状況

自転車を活用したまちづくり事業では、平成26年度に着手した市道中挾美里線と真名川河川敷周辺の自転車走行空間工事を継続して実施しました。真名川水辺の楽校を起点に佐開橋を終点とする全体延長約9 kmのサイクリングコースのうち、富田大橋下流から君が代橋上流まで約2 kmの区間について、広場整備も含めて完成しました。

橋梁補修事業では、道路法施行規則の改正に基づき、124橋の定期点検を実施しました。また、橋梁長寿命化修繕計画に基づき、1橋の補修工事を実施しました。

「まるごと道の駅」拠点整備事業では、重点道の駅「(仮称) 結の故郷」の整備に向けた全体計画案の策定や測量調査などを行いました。

<主な事業（決算額ベース）>

・自転車を活用したまちづくり事業	7, 9 6 0 万円
・橋梁補修事業	4, 2 5 0 万円
・「まるごと道の駅」拠点整備事業	8, 2 7 9 万円



サイクリングコース供用開始



重点道の駅イメージ図（H28.3 現在）

(4) 「基本目標 越前おおのの魅力あふれる活力あるまち」の実施状況

近年深刻化する人口減少を克服し地方創生を推進するため、有識者などを招いて人口減少対策会議を設置しました。会議では、各種アンケート調査や統計データの分析結果をもとに議論を深め、平成27年10月に、大野市人口ビジョンおよび大野市総合戦略を策定しました。

人口減少対策の一環として、Carrying Water Projectを開始しました。市内外のイベントなどで、市の誇る豊かで安全な水をPRするとともに、タウンミーティングを通して意見交換を行いました。また、日本ユニセフ協会とパートナーシップを締結し、東ティモールにおける給水施設の整備や水源保護の啓発活動への支援を決めました。

今後も、第五次大野市総合計画との整合性を図りながら、雇用、観光、結婚・子育て、まちづくりなどの面から、さまざまな人口減少対策に戦略的に取り組んでいきます。

越前おおのブランド推進事業では、本市出身の指揮者である齊藤一郎氏が6人目の越前おおのブランド大使に就任しました。

「天空の城越前大野城」のPRとして、兵庫県の竹田城跡、岡山県の備中松山城との共同企画を展開し、雲海に浮かぶ三城連携切手シートを発売しました。

結の故郷越前おおの転入者おもてなし事業では、転入者に、結の故郷ロゴマークの入った風呂敷と市推奨ごみ袋、市の各種資料などを提供する取り組みを開始しました。

地酒で乾杯推進事業では、地酒で乾杯を推進する条例制定による地酒PR事業への補助により、地酒の情報発信や消費拡大を図りました。

まちなかの空き家利活用によるにぎわい創出に向けて、まちなか空き地・空き家マッチング事業を創設し、貸し手と借り手のニーズを調査し、新規出店の促進を図りました。

市内観光施設など9カ所に無料Wi-Fiステーションを整備し、観光客の利便性向上を図りました。

株式会社福井グリーンパワー大野発電所の稼働による間伐材の需要増大に対応するため、高性能林業機械の導入に支援し、森林施業の効率化を促進することにより、燃料供給の安定化と木質バイオマスの利活用を支援するとともに森林の多面的機能の保全を図りました。

結の故郷特産作物生産拡大支援事業補助では、サトイモ、ネギ、キク、ナスの4大特産物の作付を増やす2団体6個人の農業者に対し、機械購入の支援をしました。

市役所駐車場を会場として開催した「結の故郷越前おおの新そばまつり」は、開催日2日間は天候にも恵まれたことから、市内外から多くのそば愛好者が訪れ、昨年より約1,500杯多い約12,300杯のそばが食されました。

奥越地区で初めてとなる「おいしいお米コンテスト」が行われ、一般部門に70点、特別栽培部門に39点の米が出品されました。出品された米は、米品質分析機による米の食味値測定や外観評価など二回の審査を経て、各部門で4点が選抜され、見た目や香り、硬さ、粘り、味を評価し、部門ごとに表彰者が決定されました。

特用林産物生産・加工施設整備事業では、市特産の「九頭竜まいたけ」を生産・加工するための施設を和泉地区に整備しました。マイタケのほか、穴馬スイートコーンや穴馬か

ぶらなどの特産品も扱います。

有害鳥獣による農林水産物の被害が拡大するなか、イノシシ53頭、ニホンジカ42頭、カラス219羽、カワウ59羽を捕獲しました。

また、平成26年度に大量出没したツキノワグマの捕獲は1頭にとどまりましたが、出没対策連絡会を開催し、猟友会、県及び警察との連携により、市民の安全確保に備えました。

土地改良事業では、真名川頭首工地区や下丁地区、塚原野地区などの7地区に対して支援を行いました。そのうち、下舌・上黒谷2期地区において圃場整備が、大野阪谷地区において用排水路整備が終了しました。

農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮のための地域活動や営農活動を支援する多面的機能支払事業において、農地維持支払では69組織の3,316ヘクタールの農地で、資源向上支払（共同）では54組織の2,872ヘクタールの農地で、資源向上支払（長寿命化）では40組織の2,564ヘクタールの農地での活動を支援しました。

また、農業の生産条件が不利な地域における生産活動を支援する中山間地域等直接支払事業では、28組織に対して、494ヘクタールの農地における活動を支援しました。

<主な事業（決算額ベース）>

・越前おおのブランド推進事業	1,661万円
・結の故郷イメージ確立事業	1,956万円
・結の故郷越前おおの転入者おもてなし事業	50万円
・地酒で乾杯推進事業	59万円
・まちなか空き地・空き家マッチング事業	34万円
・間伐材安定供給促進事業補助	743万円
・結の故郷特産作物生産拡大支援事業補助	196万円
・大野在来そばブランド化推進事業	149万円
・奥越農業振興協議会負担金	43万円
・特用林産物生産・加工施設整備事業	8億5,646万円
・鳥獣害のない里づくり推進事業	852万円
・県営土地改良事業負担金	5,684万円
・多面的機能支払交付金事業	2億6,804万円
・中山間地域等直接支払事業補助	9,502万円
・まちなか観光施設等フリースポット整備事業	364万円



Carrying Water Project タウンミーティング



齊藤一郎氏がブランド大使就任



木質バイオマス発電所



「九頭竜まいたけ」生産・加工施設

(5) 「基本目標 美しく豊かな自然環境を育み継承するまち」の実施状況

越前おおのエコフィールド、愛称「どんぐりグリーン広場」では、森づくりなどの自然環境教育と自然体験を推進しています。本年も昨年に引き続き、どんぐりの里親（いのちを結ぶ森づくり）として、市内10小学校の2年生を中心とした286人の児童が4月にどんぐりの種まきを行い、秋には、学校で育てた苗木をどんぐりグリーン広場に移植しました。

また、みんなで森づくり事業では、森づくり団体などが行う市民主体の元気な森づくり活動を支援しました。

ふるさと水と土ふれあい事業では、田園自然環境の保全を図るため、農道や水路脇などの畦畔への植栽を支援しました。

バイオマス利活用推進事業では、森林の有効活用のため、木質バイオマスなどの活用方法を検証しました。また、木質バイオマスを使ったロケットストーブ普及のための講習会を開催しました。

貯留施設整備事業では、冬期間の水不足の解消を図るため、水質マップと水温マップを作成し、解析しました。

化石保全活用事業では、和泉地区の化石の魅力を体感いただくため、5月から11月までの土日・祝日と夏休み期間を中心に化石発掘体験を実施するほか、化石の調査研究、

化石アドバイザーの養成などを通して、和泉地区の化石の保全と活用を図りました。

<主な事業（決算額ベース）>

・みんなで森づくり事業	54万円
・ふるさと水と土ふれあい事業	1,300万円
・バイオマス利活用推進事業	21万円
・貯留施設整備事業	433万円
・化石保全活用事業	1,139万円



どんぐりの里親



化石発掘体験

(6)「基本構想実現に向けた行政運営」の実施状況

第五次大野市総合計画の進行管理を継続するとともに、前期基本計画が平成27年度で終了するのにもない、後期基本計画を策定しました。計画の期間は、平成28年度から平成32年度までの5年間です。

社会保障・税番号制度（マイナンバー制度）導入にともない、市の税や戸籍などを管理するシステムを改修しました。

国勢調査が平成27年10月に実施され、市内の世帯状況について調査を行いました。

<主な事業（決算額ベース）>

・第五次大野市総合計画推進事業	182万円
・賦課徴収事務経費	5,923万円
・戸籍住民基本台帳事務経費	3,325万円
・国勢調査経費	1,517万円



第五次総合計画後期基本計画



マイナンバー制度の導入

3 将来の見通しの推移状況と成果指標の達成状況

基本構想において、将来を見通し、「人口」と「ふれあい交流人口」について目標を設定しています。

また、前期基本計画“越前おおの元気プラン”において、基本施策の達成状況を把握するため、85の成果指標を設定しています。

これらの概要と状況は、次のとおりです。

(1) 人口

目標

大野市の平成32年の人口は、平成22年の35,873人(推計値)に比べて約4,000人減少し、31,650人になると予測されていましたが、政策的要因として、中部縦貫自動車道の一部供用開始や、国道158号、保健・医療・福祉サービス拠点施設などの社会基盤の整備が進んだことなどによる若者と元気な高齢者の人口増を見込み、目標人口を33,000人と設定しました。

しかしながら、平成25年3月には、平成32年の人口が30,522人まで減少すると予測されていることから、後期基本計画では、前期基本計画からの継続した効果的な施策の実施に加え、より一層の地方創生・人口減少対策への取り組みによる人口減少の抑制を目指し、目標人口を32,000人と設定しています。

推移状況

平成22年国勢調査によると、大野市の平成22年の人口は35,291人となり、平成22年の推計値よりも約600人減少しました。

また、福井県が毎月公表している推計人口*によると、大野市の平成27年10月1日現在の人口は33,128人となり、人口減少が予測より早く進んでいる状況です。

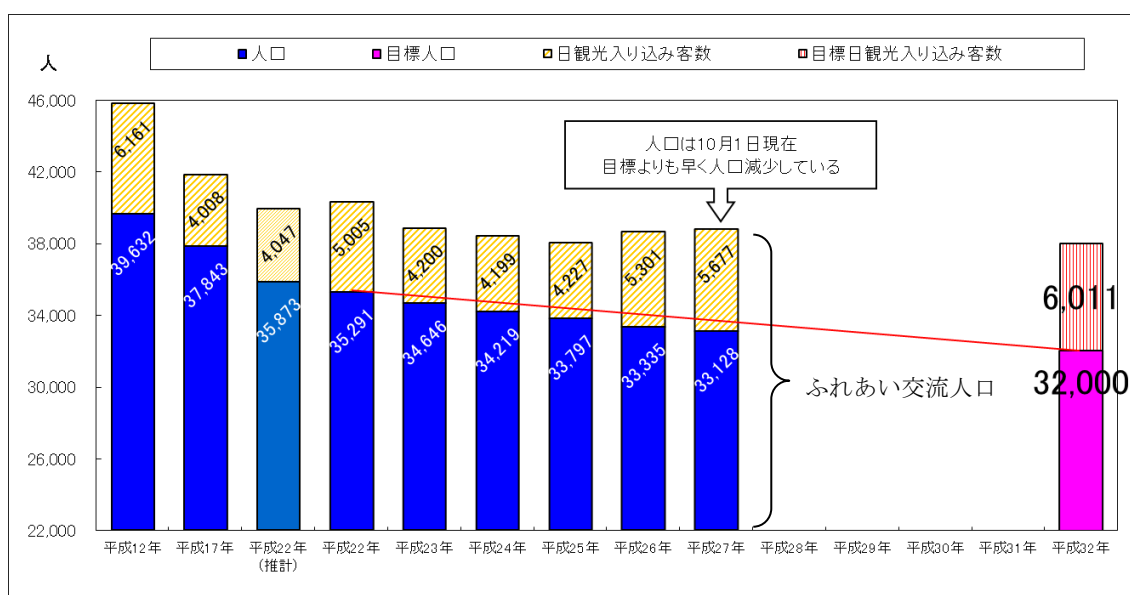


図1：人口とふれあい交流人口の推移(資料：国勢調査、福井県人口推計、市商工観光振興課)

* 「平成22年国勢調査(10月1日現在)」を基礎とし、これに毎月、市町から報告される住民基本台帳の増減数を加えて算出されているもの。平成27年は「平成27年国勢調査(10月1日現在)」(速報値)を基礎としている。

(2) ふれあい交流人口

目 標

大野市独自の見通しとして、人口に1日当たりの大野市外からの来訪者数を加えた「ふれあい交流人口」を取り入れています。地域資源を磨きつつ有機的に連携させ、中部縦貫自動車道の一部供用開始など社会基盤が整うことで、観光客の大幅増を見込み、目標年間観光入り込み客数を200万人(1日当たり約5,000人)としました。

目標人口33,000人に1日当たり約5,000人を加えて、目標ふれあい交流人口は、38,000人と設定しました。

後期基本計画では、さらなる観光客数の増加に向けた取り組みを進め、目標年間入り込み客数を220万人(1日当たり6,000人)と設定することとし、目標人口と合わせた目標ふれあい交流人口は現状維持の38,000人と設定しています。

推 移 状 況

平成16年から平成21年まで約150万人の横ばいで推移していた年間観光入り込み客数が、越前大野城築城430年祭の開催効果により、平成22年では約183万人まで増加しました。

平成23年については、同年3月に発生した東日本大震災を受けて日本全体で観光自粛ムードが漂いました。一方で、市内においては越前大野城築城430年祭後も市民団体などによる活発な事業などの実施がありました。このため年間観光入り込み客数は、前年には及ばないものの、前々年比約4%増の約153万人でした。

平成24年は、おおの城まつり大花火の荒天中止やイベント時の天候不順により、まちなか観光客は減少したものの、郊外観光において紅葉の色づきが例年より鮮やかでシーズンに多くの観光客が訪れたことなどにより増加し、年間観光入り込み客数は前年より微増、ほぼ横ばいの約154万人でした。

平成25年は、六呂師スキー場の廃業に伴う六呂師エリアの入り込み客数が大きく落ち込みましたが、これまでの事業の取り組みや、まちなか観光と郊外型観光を結合した「結の故郷おもてなし事業」の展開などが誘客に結びついたこと、3月に中部縦貫自動車道永平寺大野道路の勝山IC～大野IC間の開通による利便性の向上などにより、年間観光入り込み客数は横ばいの約154万人となりました。

平成26年は、年間を通じた「結の故郷発祥祭」による各種イベントの開催、それに付随した広報、宣伝などによる効果や「天空の城越前大野城」が話題となり、メディアなどで全国的に取り上げられたことにより、まちなかへの観光客が大幅に増加しました。また、紅葉の色づきが良く郊外への観光客も多かったことなどから、年間観光入り込み客数は前年度比約26%増の約193万人となりました。

平成27年は、北陸新幹線金沢開業と、それにとまなう北陸デスティネーションキャ

キャンペーンの展開により、全国的に北陸への注目が高まったことや、「天空の城越前大野城」が引き続きメディアで取り上げられたことなどにより、207万人となり、過去10年間で初めて200万人を超える高い水準となりました。

1日当たりの観光入り込み客数を人口に加え、合わせてふれあい交流人口として示したものが図1です。ふれあい交流人口は、平成22年では40,296人、平成23年では38,846人、平成24年では38,418人、平成25年では38,024人、平成26年では38,636人、平成27年では38,805人となりました。人口が減少している中で、観光入り込み客数の増加が、ふれあい交流人口の維持に貢献しています。

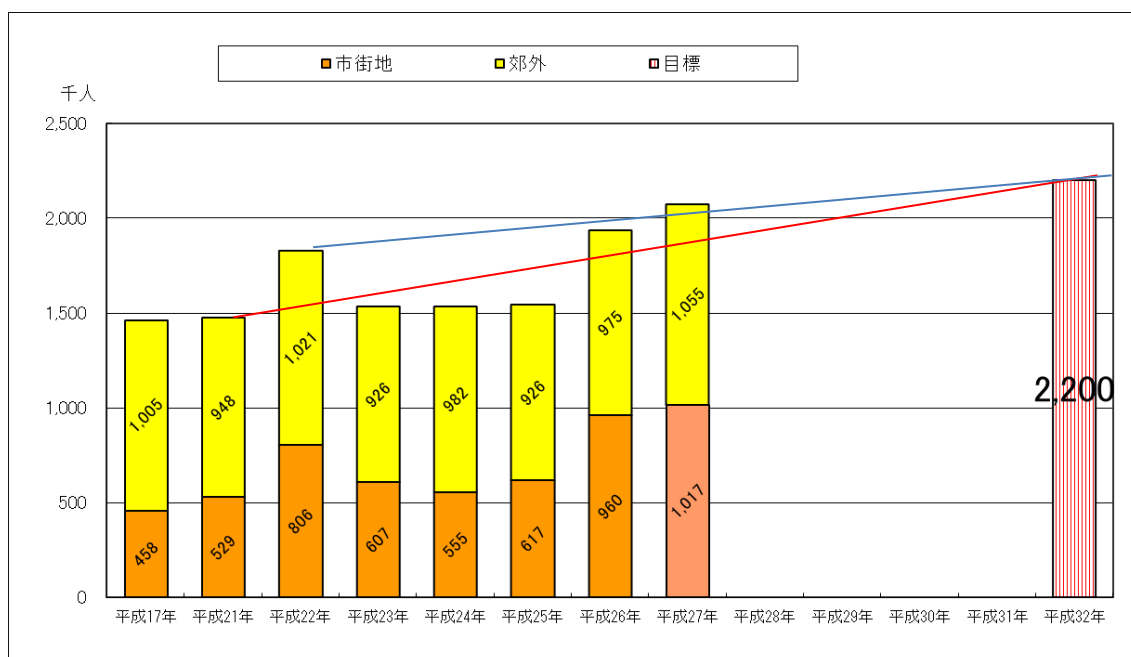


図2：年間観光入り込み客数の推移（資料：市商工観光振興課）

(3) 成果指標

目 標

基本施策の達成状況を把握するため、85の成果指標を設定しています。基本目標ごとの基本施策数と成果指標数の内訳は次のとおりです。

基本目標	基本施策数	成果指標数	達成数
優しく賢くたくましい大野人が育つまち	4	10	5
共に思いやり支え合う安全で安心なまち	8	21	8
誰もが快適で暮らしやすいまち	8	18	11
越前おおのの魅力あふれる活力あるまち	8	19	10
美しく豊かな自然環境を育み継承するまち	5	12	5
基本構想実現に向けた行政運営	3	5	1

基本目標ごとの基本施策数と成果指標数

なお、前期基本計画に掲載されている成果指標の平成22年度の現状を示す数値は、特に説明がないものは、平成22年11月末現在の数値となっています。

達成状況

85の成果指標のうち、平成22年度実績で達成した指標が7ありました。地下水位や河川水質といった常時達成していることが好ましい指標の他、越前大野城築城430年祭の開催効果によると考えられる指標が3（越美北線の乗客数、中心市街地の観光入り込み客数、観光入り込み客数）ありました。

平成23年度実績で達成した指標は11ありました。これは、数値指標として目標が明確になり、第五次大野市総合計画の初年度として成果指標の達成に向けて積極的に取り組んだためと考えられます。

平成24年度実績で達成した指標は23ありました。ソフト事業だけでなく、ハード事業でも市道改良率、農道舗装整備率で達成されました。国費や県費なども積極的に活用して取り組んできたことが成果として表れています。

平成25年度実績で達成した指標は30ありました。公民館での講座・教室受講者や、みんなでスポーツ参加者数での生涯学習分野での達成に加え、西部アクセス道路の事業化や橋梁補修のハード整備、継続して取り組んできたシバザクラの植栽面積などで達成しました。

平成26年度実績で達成した指標は38ありました。消防水利の充足率や林業作業士の育成数、年間の化石発掘体験者の延べ人数などで達成するとともに、新庁舎完成による供用開始で達成しました。

前期基本計画の最終年度となる平成27年度実績で達成したものは40ありました。刑法犯認知件数、合併処理浄化槽設置数などで達成するとともに、間伐材搬出材積などが大きく実績を伸ばしました。

また、全体の進捗率としては、平成27年度目標に対して80%以上を達成しました。

一方で、平成26年度までの実績で達成されたものの、平成27年度では達成されなかった成果指標もありました。

平成28年度からは、後期基本計画において新たに設けられた成果指標の目標達成に向けて取り組み、第五次大野市総合計画の積極的な推進を図ります。

前期基本計画“越前おおの元気プラン”掲載成果指標の達成状況一覧

 は目標達成しているもの、赤字は見直しをしたもの

基本目標	基本施策	成果指標					単位
		指標	平成22年度 現状	26年度末 実績	27年度末 実績	平成27年度 目標	
優しく賢くたくましい大野人が育つまち	心豊かな人づくり	郷土に関する学習の目標実施時間数を達成した学校数	小学校8校 中学校4校	小学校10校 中学校5校 (全小中学校)	小学校10校 中学校5校 (全小中学校)	全小中学校	達成 校数
		図書館の貸し出し冊数	133,788 (21年度)	122,040 (26年度)	129,643 (27年度)	140,000	冊
		公民館講座・教室受講者数	16,881 (21年度)	24,428 (26年度)	26,117 (27年度)	17,500	人
		外国人と市民の交流機会提供数	0	1	0	1	回
	豊かな心を育てる文化力の育成	市指定文化財数	111	108	108	115	件
		公演などの開催回数	14 (21年度)	15	13	16	回
	活力あふれるスポーツ社会の実現	みんなでスポーツ参加者数	1,600 (21年)	2,149 (26年)	2,327 (27年)	2,100	人
		スポーツ施設などの利用者数	246,302 (21年)	286,971 (26年)	307,259 (27年)	260,000	人
	共に力を合わせるふるさとづくり	協働のモデル事業の実施	0	2	2	10	件
		人権関係の啓発活動	7 (21年)	19 (26年)	20 (27年)	10	回
共に思いやり支え合う安全で安心なまち	高齢者の安全確保と社会参加の促進	要介護認定率	15.9	19.2	19.3	15.9	%
		お出かけほっとサロン事業参加者数	3,716 (21年度)	5,736	5,416	12,000	人
		雇用が促進された高齢者の数	3	16	21	50	人
	障害のある人への支援	障害者相談支援センター相談件数	2,564 (21年度)	3,153 (26年度)	4,236 (27年度)	3,000	件
		ボランティア登録者数	5,190 (21年度)	5,346 (26年度)	5,400 (27年度)	5,500	人
	子どもと子育て家庭への支援	地域子育て支援センター利用者数	4,994 (21年度)	14,625 (26年度)	14,831 (27年度)	5,500	人
		休日・延長保育の利用者数	283 (21年度)	320 (26年度)	165 (27年度)	518	人
		婚活セミナー参加者数	0 (23年度)	187	89	200	人
	保健予防と地域医療の推進	特定健康診査の実施率	36.9 (21年度)	41.4 (25年度)	39.5 (26年度)	50.0	%
		特定保健指導実施率	44.7 (21年度)	28.6 (25年度)	22.0 (26年度)	53.0	%
かかりつけ医の浸透率		72.0 (21年)	75 (26年)	75	80.0	%	
保健・医療・福祉の一体的取り組み	保健・医療・福祉サービス施設の利用しやすさ	17.6 (14年)	82.4 (26年)	84.5 (27年)	50.0以上	%	
災害に強いまちづくりの推進	自主防災組織の結成率	84	93	93	100	%	
	消防団員の充足率	98	99.3	99.6	100	%	
	普通救命講習の修了者数	400 (21年度)	920 (26年度)	852 (27年度)	500	人	
防災・消防基盤の整備	里山砂防事業の実施箇所	1	1	1	2	力所	
	住宅の耐震化率	65	69	70	90	%	
	消防水利の充足率	51.0	54.5	54.5	54.0	%	
	避難情報や国民保護情報などの一斉伝達範囲	2	100	100	100	%	
犯罪、事故、消費者被害がないまちづくりの推進	刑法犯認知件数	160 (21年)	120 (26年)	96 (27年)	100以下	件	
	消費者相談センター相談件数	125 (21年度)	215 (26年度)	241 (27年度)	150	件	

基本 目標	基本施策	成果指標					単位	
		指標	平成22年度 現状	26年度末 実績	27年度末 実績	平成27年度 目標		
誰もが快適で暮らしやすいまち	中部縦貫自動車道の整備促進	中部縦貫自動車道大野油坂道路の速やかな事業化	計画区間	大野・大野東間の事業化が妥当と判断	大野・大野東間の事業化及び測量調査	事業化		
		越前おおのまるごと道の駅構想の策定	未策定	策定済	策定済	策定		
	幹線道路網の整備促進	国道158号境寺・計石バイパスの事業化	未着手	事業化(用地測量詳細設計)	事業化(道路予備設計、地元協議)	事業化		
		西部アクセス道路の整備	未着手	事業化	事業化	事業化		
	人にやさしい道路環境の創出	市道の改良率	81.4	82.3	82.5	82.0	%	
		橋梁補修数	0	9	9	5	橋	
		歩道のバリアフリー率	31	40.4	40.9	36	%	
	快適な生活関連の基盤整備	上水道の普及率	19	21	21	21	%	
		公共下水道整備率	41.8 (21年度)	54.5	59.7	68.5	%	
		合併処理浄化槽設置数	1,364 (21年度)	1,595	1,616	1,604	基	
		一人当たり公園面積	12.9	13.8	13.8	13.8	m ² /人	
	快適な住宅の整備	高齢者等賃貸住宅家賃助成件数	34	48	36	49	件	
		高度情報化の推進	超高速ブロードバンド整備地区	大野、下庄、乾側、小山、富田の5地区	大野、下庄、乾側、小山、富田、和泉の6地区と上庄、五箇の一部	大野、下庄、乾側、小山、富田、上庄、阪谷、和泉の8地区と五箇の一部	大野、下庄、乾側、小山、富田、上庄、阪谷、和泉の8地区と五箇の一部	地区数
	公共交通手段の確保	大野市内バス乗客数	32,062 (21年度)	35,425 (26年度)	33,464 (27年度)	44,000	人	
		広域バス乗客数	334,847 (21年10月~22年9月)	284,451 (25年10月~26年9月)	275,532	355,000	人	
		越美北線の乗客数	338,000 (21年度)	336,378 (26年度)	336,578 (27年度)	347,000	人	
	雪に強いまちづくり	流雪溝の整備	86,441	87,403	87,575	87,500	m	
		降雪期前の雪下ろし作業者登録者数	79	123	103	120	人	
	越前おおのの魅力あふれる活力あるまち	越前おおの総ブランド化の展開	ブランド発信にかかわる人数	165	632	654	200	人
			里の恵み認証の登録者数	9	31	37	20	人
産地保証の登録数			63	105	110	100	人	
越前おおの型農業の推進		活性化に取り組む集落数	7	18	19	30(27年度)	集落	
		新規就農者数	15	21	22	27	人	
		特産作物の生産促進	里芋 124 ネギ 26	111 33.1	109 32.8	130 46	ha	
		耕作放棄地の再生	0.5	1.3	1.4	2.0	ha	
		農道舗装整備率	78.2	87.6	88.7	80.0	%	
森林整備の推進と林業の振興		間伐材搬出材積	4,790 (21年度)	12,793 (26年度)	24,509 (27年度)	6,000	m ³	
		林業作業士育成数	23	33	32	33	人	
		林道舗装率	38.9	45.8	46.3	47.3	%	
中心市街地の活性化		中心市街地の観光入り込み客数	42.6 (21年)	86.2 (26年)	89.0 (27年)	52.5	万人	
		歩行者通行量	2,869 (21年)	4,162 (26年)	4,542 (27年)	3,700	人	
戦略的な観光の推進		観光入り込み客数	148 (21年)	193 (26年)	207 (27年)	175	万人	
地域間交流の推進		交流を行う自治体数	6	13	13	15	自治体	
定住の促進		定住受け入れ件数	6	34	52	18	件	
	定住のための住宅取得件数	58	201	250	85	件		
雇用の確保と働く環境の整備	チャレンジ企業認定件数	3	4	5	10	件		
	育児休業取組事業所数	2	4	1	5	事業所		

基本目標	基本施策	成果指標					単位
		指標	平成22年度 現状	26年度末 実績	27年度末 実績	平成27年度 目標	
美しく豊かな自然環境を育み継承するまち	地下水の保全と湧水文化の再生	11月の平均地下水位					m
		御清水観測井	1.63	1.04	1.05	1.50 未満	
		春日公園観測井	7.11	5.23	5.40	6.63 未満	
		菖蒲池(浅井戸)観測井	7.82	6.59	6.68	7.57 未満	
		(17~21年度の平均)					
	豊かな自然環境の保全と創出	森づくり関係団体数	11	13	13	15	団体
		地域で設置された自然環境に配慮した施設の設置数	6	11	11	12	カ所
		化石発掘体験者数	25 (23年度)	2,984 (26年度)	4,103 (27年度)	2,000	人
	快適な生活環境の保全	水質基準を達成した河川などの数	8 (21年度)	11	11	11	河川など
		水洗化率	48.8 (21年度)	51.0 ※(59.9)	51.8 ※(61.0)	61.0	%
		違法な屋外焼却に係る苦情件数	32 (21年度)	7 (26年度)	12 (27年度)	0	件/年
	良好なふるさと景観の形成	修景と屋外広告物改修の補助件数	修景 18 広告物改修 0	56	66	38	件
				1	2	18	
		芝桜などの植栽面積	27,000	337,071	395,380	200,000	m ²
	次世代につなぐ持続可能な社会の形成	住宅用太陽光発電設備設置件数	95 (21年度までの累積)	210	210	215	件
1人1日当たりのごみ排出量		887 (21年度)	875 (26年度)	887 (27年度)	835	g/人・日	
ごみの資源化率		25.3 (21年度)	24.5 (26年度)	24.1 (27年度)	28.1	%	
基本構想実現に向けた行政運営	市民総参加・協働型の市政の推進	市ホームページアクセス件数	320,000 (19~21年度の平均)	305,916 (26年度)	295,037 (27年度)	370,000	件
		新しい市庁舎の建設	構想策定	工事竣工 供用開始	城下町南広 場完成	新庁舎 供用開始	
		パブリックコメント案件1件当たりの意見数	3 (21年度)	2.8 (26年度)	7.4 (27年度)	10	件
	情報化社会に対応した市政の推進	施設予約システムでの利用可能施設数	2	4	4	10	施設
		電子申請システムでの利用可能手続数	24	18	20	40	件
	健全な行財政の推進	指標なし	—	—	—		

※水洗化率の括弧書きの数値は、成果指標目標設定時の従前換算による数値です。

第五次大野市総合計画
平成27年度における取り組み状況報告

平成28年6月
大野市企画総務部企画財政課